

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 八頭高等学校

重点項目	探究学習重点校	提出日	令和5年5月1日
------	---------	-----	----------

1 学校目標	
<p>生徒信条「真摯明朗」「克己盡力」の校風を継承し、素直で明るく、心身共にたくましい人材の育成</p> <p>(1) 授業に集中</p> <p>①高校生活や授業におけるマナーの徹底。</p> <p>②全教科で公開授業や研究授業を実施するとともに、積極的にALやICTに係る研修に取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。</p> <p>③一人一台端末の効果的な活用と、新学習指導要領、特に観点別評価の導入について円滑に対応する。</p> <p>(2) 行事で団結・部活は熱中</p> <p>①本校独自の活動を通して八頭高生としてのアイデンティティーを育むとともに、地域から信頼される学校作りを行う。</p> <p>②生徒の悩みに的確に対処し、心身の健全な発達を促すとともに、学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営を行う。</p> <p>(3) 進路に挑戦</p> <p>①基礎学力の確実な定着に取り組むとともに、生徒の習熟度に応じた高い学力の育成を図る。</p> <p>②多様な進路に対応しながらも安易に妥協させず高い志望に挑戦させる。</p>	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<p>「翠ヶ丘から世界へ羽ばたく～ローカルからグローバルへ～」をテーマに、SDGsに基づいた地域課題を探究する。この活動により、生徒に学ぶことの楽しさ、奥深さ、有益さを実感させると共に、他者と協働して活動を進める意義を実感させたい。生徒は探究活動を言語化することで活動を内面化すると共に、上級学校への進学後も身につけた力を発揮させたい。</p> <p><数値目標></p> <p>○2年次の探究テーマを20テーマ以上。</p> <p>○大学入試の総合型・学校推薦型選抜に探究活動を利用する生徒20名以上。</p>	<p>○2年生の探究ゼミでは、外部人材活用事業、企業家訪問、鳥取大学体験実習を実施しながら探究活動を深めることができた。</p> <p>○2年生の翠陵探究では、鳥取大学との高大連携、企業でのフィールドスタディ、八頭町議会議員との交流会などを実施しながら探究活動を深めることができた。</p> <p><数値結果></p> <p>○2年次の探究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究ゼミ（探究理科、探究文科類型） →16テーマ ・翠陵探究（体育、看護医療、総合理科、総合文科類型） →33テーマ <p>○大学入試において（探究活動の利用は不明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜 →のべ63名が受験し、33名が合格 ・学校推薦型選抜 →のべ63名が受験し、28名が合格

3 実施事業

【高等学校課事業】

○外部人材活用事業（県立高校・大学教員交流事業）

- ・探究ゼミのガイダンス、中間発表、最終発表の指導助言者として公立鳥取環境大学から招聘。
 - 4月28日：大学における研究活動を意識した高校でのプロジェクト研究の意義とその進め方。
(人間形成教育センター副センター長 吉田 聡 氏)
 - 10月20日：中間発表に対する助言と講評。
(副学長補佐・就職支援センター長 石川 真澄 氏)
(人間形成教育センター副センター長 吉田 聡 氏)
 - 3月 2日：最終発表に対する助言と講評。
(副学長補佐・就職支援センター長 石川 真澄 氏)
(人間形成教育センター副センター長 吉田 聡 氏)

○ふるさとキャリア教育推進事業キャリア塾「教えて先輩」版

- ・2年探究文科類型・探究理科類型による企業訪問（6月9日） ※R4年度で8回目の実施
 - 鳥取市内企業4社、八頭町内企業3社、若桜町内企業1社を訪問。各社の充実したプログラムにより、仕事への思いや課題解決に向けた取組について、生徒は理解を深めるとともに地域の魅力を再発見することができた。

○生徒の思考力・判断力・表現力の強化のためのハイレベル講座（3月16日）

- ・神戸大学大学教育推進機構大学教育センター准教授 大山 牧子 氏を講師として招聘。
 - 1年「総合的な探究の時間」及び2年「探究ゼミ」の代表2チームの発表に対する指導助言と探究活動の在り方に関する講話（講義を録画し、生徒へ動画を提示）。

【独自事業】

○探究活動推進事業

- ・探究活動に係るアドバイザーの指導助言
 - 翠陵探究（2年生体育類型、看護医療類型、総合理科類型、総合文科類型における総合的な探究の時間）において、研究プロセス（テーマ設定・問いづくり・情報収集・分析・まとめ・発表）や研究内容について、鳥取大学の先生方にアドバイザーとして専門的な見地から助言いただいた。
 - 7月12日：鳥取大学鳥取キャンパスにおいて、鳥取大学の8名の先生方から指導助言（鳥取大学合同ミーティング）
 - 12月13日：本校において、鳥取大学の9名の先生方から指導助言（経過報告会）
 - 3月14日：本校において、鳥取大学のアドバイザー、連携企業、八頭町議会事務局及八頭町教育委員会の方を来賓として招き、翠陵探究の中間発表会（ポスター発表）を実施
- ・探究活動職員研修会（3月16日）
 - 神戸大学大学教育推進機構大学教育センター准教授 大山 牧子 氏を講師として、生徒の「思考力・判断力・表現力」の向上を目的に、問いづくりや支援の在り方、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な指導方法に関する研修をYouTube 配信により実施した。
- ・ジュニア農芸化学会での発表
 - 実施せず
- ・探究活動教員派遣研修（8月6日、27日、10月16日、12月26日、3月27日の計5回）
 - 大阪大学全学教育推進機構准教授 佐藤 浩章 氏による「高校教員のための探究学習指導セミナー」（オンライン）を受講した。

・探究活動先進校視察

→2月24日、探究部長と探究部教員の2名が大阪府立東百舌鳥高等学校を訪問し、社会が求める能力の育成に向けた取組や探究活動におけるICT機器の活用方法、探究学習の成果と進路実現の結びつきについて学んだ。

○探究類型活性化プロジェクト

・探究ゼミ（2年生探究理科類型、探究文科類型の学校設定科目2単位）

→各教科の特性に合わせたテーマを設定しての少人数によるグループ研究。R4年度は16テーマで実施した。

・鳥取大学体験実習（11月17日）

→2年探究理科類型36名及び2年探究文科類型42名の計78名が鳥取キャンパスにおいて、次の内容で体験実習を実施した。

探究理科類型：鳥取大学教育支援・国際交流推進機構入学センター教授 森川 修 氏を講師として、pHが不明な試料から、中和反応を用いてpHを求める実験計画を立案し、未知試料のpHを求め実験結果をまとめた。実験をとおして思考・判断・表現の重要性を学んだ。

探究文科類型：鳥取大学教育支援・国際交流推進機構入学センター准教授 三井 規裕 氏を講師として、ワークショップをとおして研究目的の明確化について学んだ。

・Bridge（学年の枠を超えた生徒交流）

→実施せず

4 総合所見（成果・評価）

○少人数による実験・実習・演習等をとおして、生徒の各分野への理解が深まるとともに、興味・関心を高め、主体的な態度やプレゼンテーション能力の育成に成果をあげている。

○鳥取大学アドバイザーとの合同ミーティングは、1学期に実施することができ、生徒の意識向上や主体的な態度と論理的思考力の育成につなげることができている。

○企業家訪問は、地域課題の解決に向けて取り組む企業の状況や魅力の再発見につながっている。

○校外の発表会等に参加することが少ないため、発表会等を積極的に案内したり活用したりしながら生徒の変容を職員と生徒で共有し、より一層の探究活動の充実を図ることが課題である。

※枚数任意